令和5年10月15日発行　　刀　剣　界　　第67号

刀剣界
NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL
2023.10.15　No.67
発行人　深海　信彦
発行所　全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保２－18－10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601　FAX:03(3205)0089
https://www.toukenkumiai.com/

第67号編集担当
赤荻　稔　　飯田　慶雄
伊波　賢一　　大平　岳子　　嶋田　伸夫　　清水　儀孝
生野　正　　瀬下　明　　土子　民夫　　綱取　譲一
土肥　豊久　　服部　暁治　　深海　信彦　　松本　義行
冥賀　吉也　　持田　具宏　　吉井　唯夫

# 「大刀剣市２０２３」は11月18・19日に開催

第35回「大刀剣市」は11月18日（土）・19日（日）の二日間、東京・新橋の東京美術倶楽部において開催します。これに先立ち、事前説明会は七月十七日、特別交換会終了後の同会場で、昨年より二カ月早く行われました。

参加規則はプリントにして参加者に配布しましたが、あらためて読み返してみてください。営業管理、利用店舗の毀損、これはブースを大切に扱ってほしい、こんな意味です。販売に際しては不当な営業をしない、これは裏付けのない伝来などを騙ってはいけない、そんな意味です。

出店者のほとんどが参集した事前説明会

売り場内の商品管理、金銭管理、当然に聞こえますが忙しい時の複数案件の処理中、小さい商品、受け取った現金の場所などを忘れてはいけません。昨年は実行委員がカメラの動画を確認し、忘れ去られた現金が無事に見つかった事例がありました。

同時に安全管理もお願いします。通路は安全な歩行のため、私物や商品をはみ出させないでほしいのです。S字フックの先端が隣のブースに入ることを私たちは領空侵犯と呼んでいます。これをするときは、隣に断ってから行ってください。

今年はお弁当を広い場所で召し上がっていただけるようになりました。一方、販売に来てくれる業者さんが大変少なく閉口しました。交換会に仕出しをしてくれるお弁当屋さんの多くが、人手不足で販売員が出せないとの理由で断ってきました。服部一隆氏が同ビル上下テナントのよしみで人気のお弁当屋さんに頼んでくれましたが、よい返事を頂けませんでした。二人合わせて十一軒の業者に断られ続けました。

また、良心的で昨年の仕出しを検討したお店からは「お弁当販売はコロナ禍における私たちの仮の姿、落ち着いてきた今、元の業態に戻し、お弁当は卒業したい」と言われ、これにはうなずくばかりでした。

それでも何とか三軒の業者さんに協力を取り付けました。どこも美味しいお弁当です。ご期待ください。

東海道新幹線も10月からワゴン販売を終了します。帰途、夜汽車の旅のお供にもご検討してみてはいかがでしょう。

ともあれ、この「刀剣界」が皆さんの元に届くころ、図録も完成し、大刀剣市は開幕に向けて気運も高まっているでしょう。もう私は自分の職場の売り上げなどどうでもよくなってきました。まずは安全に無事に進んでほしいだけです。それには皆さんの協力が不可欠となります。（「大刀剣市」実行委員長　綱取譲一）

## 組合交換会開く

猛暑のさなかの７月 17 日、「大刀剣市」説明会に先立ち、組合特別交換会が開催されました。

当日は朝からテレビで“エアコンをつけて命を守ってください”とアナンサーが叫ぶほどでしたが、76 名もの組合員の参加があり、遠く関西以西からも、重要刀剣を携えた方を含め 10 名ほどの来場がありました。

会場に入られた皆さんは、大量の品物が既に所狭しと並べられていたのに驚かれたようです。「これ全部、組合の売り物 !?」。点数でいうと、小物を含め 800 点近くあります。嗅覚鋭い組合員は、品物の格・保存状態から見て、出どころは１カ所だなと気づかれたでしょうか。

これら大量の品物は、直接組合に“依頼”が来たものではなく、組合員の店舗に来た話を質・量が組合交換会向きということで、組合に買い取り・売却を任せていただくというありがたい話でした。

この大量の品物の早期売却のため、６カ月を待たずに臨時開催となりました。総出来高はおよそ 2,400 万円。そのうち組合出品売り上げは 1,500 万円でした。

次回交換会は 12 月 17 日（日）の予定です。

（服部暁治）

「大刀剣市 2023」出店者一覧

| 屋号 | 氏名 |
|---|---|
| ㈱銀座 長州屋 | 深海　信彦 |
| 銀座 丸英 | 瀬下　昌彦 |
| 刀剣 杉田 | 杉田　侑司 |
| 日本刀剣 | 伊波　賢一 |
| 刀剣 はたや | 簇谷　三男 |
| 霜剣堂・黒川 | 黒川　精吉 |
| 銀座 日本刀ミュージアム泰文堂 | 川島　貴敏 |
| 勝武堂 | 大平　岳子 |
| ㈱コレクション情報 | 村上和比子 |
| ㈱永和堂 | 朝倉　忠史 |
| 藏屋はしもと | 橋本建一郎 |
| ㈱日本刀 柴田 | 柴田　和光 |
| ㈱刀剣柴田 | 柴田　光隆 |
| 神田 藤古堂 | 藤田　一男 |
| ㈱晴雅堂 清水 | 清水　儀孝 |
| 静心堂 芦澤 | 芦澤　一幸 |
| 三明貿易 刀剣徳川 | 福岡　勇仁 |
| 平成名刀会 | 鈴木　雅一 |
| 江州屋刀剣店 | 小暮　昇一 |
| ㈱城南堂古美術店 | 田中　勝憲 |
| ㈱安東貿易 | 安東　孝恭 |
| 銀座 盛光堂 | 齋藤　恒 |
| 長谷宝満堂 | 蛭田　道子 |
| 矢澤商会 | 矢澤　隼 |
| 一文字堂 | 美濃部政人 |
| 古美術 草分堂 | 草分　一雄 |
| 札幌 横山美術 | 横山　忠司 |
| 慶長堂 | ヒューズ・只一 |
| 尚佳洞 | 深津　尚樹 |
| ㈱日宝 | 田澤　二郎 |
| ㈱美術刀剣みらい | 中永　善之 |
| 刀剣 坂田 | 坂田　哲之 |

| 屋号 | 氏名 |
|---|---|
| もちだ美術 | 持田　具宏 |
| 刀剣古美術 京都むらかみ | 村上　昌弘 |
| 一文字商会 | 古屋　祐介 |
| ㈱美術刀剣 松本 | 松本　義行 |
| 福隆美術工芸 | 綱取　譲一 |
| ㈱紀の国屋 | 佐孝　宗則 |
| イー・ソード | 平子　誠之 |
| ㈲濃州堂 | 栗原　春吉 |
| 栗原金庫製作所 | 五十嵐啓司 |
| 古美術刀剣 山城屋 | 嶋田　伸夫 |
| つるぎの屋 | 冥賀　吉也 |
| 飯田高遠堂 | 飯田　慶雄 |
| 刀剣 髙吉 | 髙島　吉童 |
| 日本刀 簇谷 | 簇谷　大輔 |
| 服部美術店 | 服部　暁治 |
| 大宮 清水商会 | 清水　敏行 |
| 古美術 成蹊堂 | 松川浩二郎 |
| ㈱永楽堂 | 木村由利子 |
| 大阪刀剣会 吉井 | 吉井　唯夫 |
| むさし屋 | 猿田　慎男 |
| 新堀美術刀剣 | 新堀　孝道 |
| 刀友会 | 山本　一郎 |
| 大和美術刀剣 | 大西　康一 |
| 儀平屋 | 今津　敦生 |
| ㈱ギャラリー翠篠 | 村上　竜太 |
| 玉山名史刀 | 玉山　真敏 |
| 刀剣佐藤「倉敷刀剣美術館」 | 佐藤　均 |
| ㈱和敬堂 | 土肥　豊久 |
| 三刀流 | 山田　基洋 |
| 恵那秋水会 | 松原　正勝 |
| 川越 優古堂 | 三浦　優子 |
| ㈱舟山堂 | 稲留　修一 |
| 真玄堂 | 高橋　歳夫 |
| ㈱杉江美術店 | 杉江　雄治 |
| 筑前刀剣堂 | 黒川　宏明 |

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定
㈱城南堂古美術店
代表 田中 勝憲
〒153-0051
東京都目黒区上目黒四-三一-一〇
TEL 〇三-三七一〇-六七七六
〇九〇-三二〇八-九六一二
FAX 〇三-三七一〇-六七七七

刀 買取 委託
e-sword　イーソード
〒350-1115 埼玉県川越市野田町 1-4-19 1F
TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407
刀 通販サイト
www.e-sword.jp
日本刀 イーソード 検索
mail:info@e-sword.jp
㈱ e-sword（イーソード） 平子誠之

刀剣・書画・骨董
和敬堂
土肥豊久・土肥富康
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
http://wakeidou.com/

刀剣 髙吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください！
連絡先 090-8845-2222
代表者 髙島吉童
東京都北区滝野川７-16-６
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

刀 日本刀・刀装具 販売・買取
創業38年 株式会社 美術刀剣 松本 since 1984
代表取締役 松本義行
Tel.03-6456-0889
東京西葛西店/東京都江戸川区西葛西6丁目13-14丸清ビル3F
刀剣松本 検索

令和5年10月15日発行　　刀　剣　界　　第67号

## 組合こよみ（令和５年４～９月）

４月３日　新事務局員秋田由美子さん出勤
３日　刀剣評価査定のため清水専務理事が来所
11日　刀剣評価査定のため伊波副理事長と嶋田常務理事が来所
15日　新橋プラザビルにおいて第37期第１回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・持田理事・大西監事・冥賀監事
５月９日　新事務局員廣岡清子さん出勤
９日　刀剣評価査定のため服部副理事長と嶋田常務理事が来所
17日　東京美術倶楽部において第36回通常総会を開催。出席者66名、委任状73名、合計139名。選挙を実施し、新理事に赤荻稔・飯田慶雄・伊波賢一・大平岳子・嶋田伸夫・清水儀孝・生野正・新堀孝道・瀬下明・綱取譲一・土肥豊久・服部暁治・深海信彦・松本義行・持田具宏、冥賀吉也・吉井唯夫の17名を選出。その後、理事全員の互選により深海信彦新理事長に満場一致で決定
17日　東京美術倶楽部において特別交換会を開催。参加75名、出来高44,018,440円
23日　刀剣評価査定のため清水専務理事と嶋田常務理事が来所
27日　刀剣評価査定のため深海理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事が愛知県に出張
29日　賛助会員・吉原国家刀匠が逝去
29日　刀剣評価査定のため服部副理事長と清水専務理事が来所
６月９日　事務所において第37期第２回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・瀬下理事・松本理事・冥賀監事
９日　刀剣評価査定のため清水専務理事と嶋田常務理事が来所
16日　東京美術倶楽部において臨時理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・新堀理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・吉井理事・冥賀理事・飯田相談役
21日　深海理事長と嶋田常務理事が警察庁生活安全局生活安全企画課を訪問、決算関係書類を提出
21日　新橋プラザビルにおいて常務会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・飯田相談役
22日　刀剣評価査定のため服部副理事長と生野理事が来所
24日　刀剣評価査定のため綱取常務理事と持田理事が来所
７月６日　刀剣評価査定のため清水専務理事と嶋田常務理事が来所
17日　東京美術倶楽部において特別交換会を開催。参加76名、出来高24,035,180円
17日　東京美術倶楽部において「大刀剣市」事前説明会を開催。出席57名
21日　刀剣評価査定のため服部副理事長と清水専務理事が来所
21日～22日　24日～28日　藤代スタジオにおいて「大刀剣市」カタログ用写真撮影
31日　深海理事長が日本美術刀剣保存協会訪問、柴原専務理事・飯田事務局長と会談
８月３・４・７日　新橋プラザビルにおいてタケミアートによる「大刀剣市」カタログ用写真撮影
８日　刀剣評価査定のため服部副理事長が来所
10日　2023年度「現代刀職展」表彰式に深海理事長が来賓として出席。『刀剣界』取材のため生野理事が参加
10日　事務所において「大刀剣市」カタログ編集委員会を開催（紙面構成）。出席者、嶋田常務理事・綱取常務理事・持田理事・冥賀亮典監事・服部一隆特任理事・土子民夫氏・東京平版遠山氏
31日　刀剣評価査定のため服部副理事長と清水専務理事が来所
９月１日　新橋プラザビルにおいて第37期第４回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・生野理事・新堀理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・吉井理事・大平将広特任理事・新堀賀将特任理事・瀬下昌彦特任理事・服部一隆特任理事・大西監事・冥賀監事・土子氏
４日　深海理事長が日本美術刀剣保存協会を訪問
４日　日本美術刀剣保存協会の評価査定依頼により綱取常務理事が墨田区に出張
５日　伊波副理事長と大西監事が「大刀剣市」後援依頼のため産経新聞社を訪問
16日　東京美術倶楽部において理事懇談会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・生野理事・新堀理事・持田理事
16日　東京美術倶楽部において『刀剣界』第67号編集委員会を開催（初校）。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・生野理事・新堀理事・持田理事・土子氏
22日　事務局において「大刀剣市」カタログ初稿。出席者、嶋田常務理事・冥賀監事・土子氏
25日　刀剣評価査定のため嶋田常務理事が来所
27日　刀剣評価査定のため服部副理事長と清水専務理事が千葉県に出張
27日　刀剣評価査定のため綱取常務理事と生野理事が大田区に出張
28日　東京プリンスホテルにおいて開催された「和田よしあき励ます会」に深海理事長・清水専務理事・嶋田常務理事が出席

## 急告　現代刀の贋物流通にご注意を！

奈良県において日本刀を製作しておられる河内国平刀匠から、自身作と偽る贋物の存在を確認したので、注意されるようにと、当組合に情報提供がありました。そこで、組合員の皆さまにお知らせします。

近年、河内刀匠の贋作がインターネットなどを介して販売されているとのことです。河内氏自身が明らかな贋作として確認された作品としては、

①刀　　銘 於よしの 国平造之
②太刀　銘 朝夏霞 国平製 平成二二年好日
③刀　　銘 河内国平作 昭和乙卯年立春吉日

の３振です。

同刀匠の手元には、過去に製作した一切の作品に関する詳細な控えがあるとのことで、真偽に関しては、下記まで問い合わせれば回答を頂けることになっています。組合員各位におかれては、当該作を扱う際には確認を徹底し、被害に遭わないようご注意ください。

贋作の流通を許してしまえば業界全体の信頼失墜につながることとなり、到底看過することはできません。今後、関係諸機関とも連携して厳しい対応を検討してまいります。情報をお持ちの方は、ぜひ組合までご連絡をお願いします。

■問い合わせ先＝河内晋平氏
Email：shikumi1@gmail.com

NEWS & TOPICS

## ビールを通して刀剣文化を応援

HOPPIN'GARAGEより日本刀をイメージしたビール「HOPPIN'GARAGE 刀剣キラリ」が発売されました。

本企画の中心となったのは「刀剣乱舞」を世に出し、空前の刀剣ブームを創出した㈱ニトロプラスのライセンス管理を務める「ＯＫ間」さん。

製造に当たっては、現代において刀の原材料となる玉鋼を生み出す「たたら製鉄」の窮状を救うため、たたら製鉄とゆかりの深い奥出雲の地で生まれた「たたら焔米」を副原料として使用。さらに刀剣文化の継承を願い、販売数に応じて一本当たり十円を、（公財）日本美術刀剣保存協会に寄付し、「たたら製鉄」の保護活動に貢献するとされています。

スッキリとした飲み味の「刀剣キラリ」を飲んで、刀剣文化の啓蒙にぜひご協力ください。お申し込みは次のアドレスへ。

https://www.hoppin-garage.com/story/toukenbeer/

刀剣キラリを飲もう!

NEWS & TOPICS

## 足利市が「山姥切国広」を三億円で取得へ

堀川国広が足利領主長尾顕長の依頼で鍛えた名刀「山姥切国広」（重要文化財）について、栃木県足利市と足利市民文化財団は七月二十一日、所有者から三億円で購入すると発表した。

購入額のうち二億円は同財団が資産から捻出し、一億円は市がクラウドファンディングなどで募る。本年度中に売買契約を締結し、購入後は同財団が所有、来年度末にはお披露目の展覧会を開催する方針という。

購入を巡っては昨年、所有者が市に譲渡する意向を示したことを受け、市が検討していた。「足利の歴史文化を語る上で欠くことのできない重要な史料。ゆかりの文化財を後世に守り伝えることが使命」と判断した。

購入に当たり、市は有識者五人による評価委員会を設置し、購入の意義や資産価値について意見を聴いた。「国宝級であり、経済波及効果なども加味すれば、三億円が妥当」との評価を受けたという。

市は「ゆかりの足利で大切に保管され、この地で多くの人に見ていただくことが、この刀にとって一番良いと思い、託すことにした」との所有者のメッセージも公表した（別掲）。

購入に向けて市は、「山姥切国広繰（くる）繰（くる）プロジェクト」を立ち上げ、九月一日からクラウドファンディングなどの募集を開始した。早川尚秀市長は「大きな喜びと重責を感じている。足利の歴史の新たな一ページとなるよう、応援をお願いしたい」と呼びかけた。

同財団は既に国広作の脇指「布袋国広」（重要美術品）を所蔵している。笠原健一代表理事は「山姥切と大小二振を一緒に守り伝える機会を頂いたことは奇跡」と述べている。

クラウドファンディングを活用した刀剣の購入では、二〇二〇年に瀬戸内市が五億円で購入した国宝「山鳥毛」が大きな話題となったが、山姥切はこれに次ぐ金額となり、重要文化財としては最高額となる模様。『堀川国広とその弟子』を著し、無類の国広蔵刀家として知られた伊勢貞彦氏（日本相撲協会映画部）随一の愛刀だった山姥切は、市民・県民らの熱意で間もなく生誕の地に帰還する。

山姥切国広

### 山姥切国広を愛して下さっている皆様へ

ご心配をいただき本当にありがとうございます。

5年前から、縁あって足利市とお付き合いをさせていただき、いつも誠実に真摯に向き合ってくださり、とても信頼しております。

山姥切国広を私達の元で眠らせて置くには存在があまりにも大きくなりすぎていて、正直守りきれなくなってきています。

手放すのは断腸の思いではありますが、保管されている場所は私達も見学させていただきましたが、湿度、温度管理、セキュリティもしっかりされていて、とても居心地が良さそうでした。

考え抜いた結果、信頼できる足利市にお任せするのが一番良いのではないかと思っております。

今後、山姥切国広が幸せになり、より一層皆様に愛されることを切に願っております。

持ち主

令和5年10月15日発行

# 刀剣界

第67号

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、**記事を募集しています**。ニュースや催事情報、イベント・リポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

古都の折々 12

## 還るところ 高野山

石井 理子
筆者は奈良県在住

人は何故、高野山に惹かれるのだろう。

母と息子を伴って、父の納骨に向かった。そして、高野山（極楽橋）行きの電車に乗りこむと、思わず息をのんだ。

噂には聞いていたが、大きなスーツケースやバックパックを提げ、Tシャツに短パン姿の外国人観光客が大勢いる。欧米人が多い。彼らの宗教や文化と相通ずるものがあるのだろうか？

そんなことを考えているうちに、南海極楽橋駅からケーブルに乗り換え、高野山駅に降り立つ。ようやく、混雑から解放された。

さらに、奥院行きのバスに乗り、「刈萱堂」で下車した。

高野山の本堂というのは、「金堂」が一山の総本堂になるという。山内にある百十七の寺は塔頭寺院であり、私たちは「恵光院」に伺った。来年の年末まではこちらに安置し、その後は奥院に納骨ということになる。

仏事の前に、宿坊の一間に通された。窓の外を見ると、青紅葉の鮮烈さに目を射抜かれるようだ。

そのうちに刻限になり、本堂に案内される。

読経と焼香の間、父が亡くなってからの来し方を想っていた。

正直なところ、慌ただしすぎた。自分と向き合えていなかった。けれども、ここ高野山に来て、ようやくそれが叶った気がする。

父は生前、「亡き後は、高野山に納骨してほしい」と言っていた。両親や兄姉がいるからだろう。

しかし、何よりも高野山の持つ清浄さ、形容し難い空気感を、常に茶人であろうとした父が見落とすはずがない。

かく言う私は、十数年前に訪れていた。なのに、名物の饅頭を買った記憶しかない。

しかし、父をはじめ親類や友人を幾人も見送った今、感じるものは全く違っていた。油断すると、涙ぐむような、言葉にならない、そんな心持ちだった。

一の橋を渡り、奥院の域に入ってみた。大名家や諸々のお家、先の大戦で戦死された英霊の慰霊碑などがある、幾多の人々が眠っている。

「ああ、みんな、ここに還るんだ」

そして、父もここに還りたかったのだと、肩の荷が下りたかのようだった。

とてもとても名残惜しかったが、息子に観光列車「天空」に乗ろうとせがまれていた。

高野山駅に戻ると、行きの電車で出会った外国人観光客と再開する。

そうか、この還る場所を尊ぶ心に国境はないのだろう。ようやく納得して、私はもう一度彼らを見やった。

古老に聴く 第十回

## 公爵亀井家の兜・続

綱取 譲一

（前号より続く）俺と柴田和光氏は亀井家の兜を持って鎌倉の笹間良彦氏を訪ねた。笹間氏は既に柴田氏の名前を知っていて、大変喜んでいる。二人は固唾を飲んで言葉を待った。

「やあ、綱取さん、金星を射止めたも同然だね。これは大名家が精巧に南北朝期の兜を写させた見事な復古調の兜ですよ」

南北朝期の兜と期待していた俺と柴田氏は、笹間家の書斎でヘナヘナと床へ崩れ落ちた。

この晩、広井雄一氏が俺たち二人を呼んでくれたのは、新宿の「門」というショットバー。そこで俺は「笹間先生は優しく『綱取さんが見紛うのも無理はない』と言うのですよ」とそのまま広井氏に伝えたところ、広井氏は「それは優しいのでなく厳しいのだよ。突き放されたんだ」と。俺は頷くばかりか、「門」の床にもヘナヘナと膝から崩れ落ちた。

それから三十年近い時が流れ、還暦が近い俺の前にある兜鉢が現れる。千葉県立中央博物館大多喜城分館の甲冑企画展の話をある刀装具蒐集家に漏らしたところ「千葉県民と熱心な若い数寄者のために出してやろうか」と、その方が唯一持っている甲冑部品を見せられた。これが前号で予告した兜鉢コードネームＪＡＹＯ40だ。

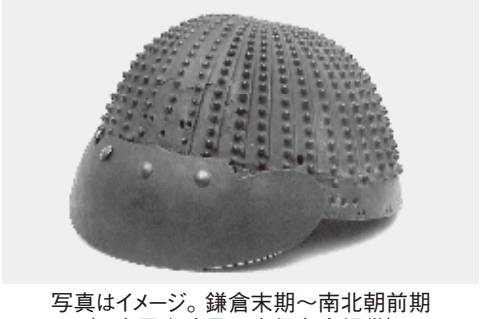
三十八間の二方白の前方に二間が隠れ四十間が事実。一行十五点の星に天辺の葵座を貫く一と腰巻の一を加える。まざまざとこの鉢を手に取ることができたのは俺のほか、甲冑製作者の石原明浩氏、日本甲冑武具研究保存会評議員の鈴木裕介氏と山田怜門氏、オランダ人のヨ・アンセウ氏。チャンスを逃さないよう発表の場に促した俺に到着後の鈴木氏はメールで、「兜鉢の妖気と毒気に既に当てられています」と返してきた。

その場に居合わせた全員が初めて見る状態の良さで、黒漆、金銅、限りなく薄い天辺の素銅の玉淵は見るものの視点が移動しても、視線の方は掴まれ離されない。厘劣りは一段下より上が大きい逆転も起こって大雑把だが、上下で75:100ほどの容積減を感じる。鉢の一間ずつを構成する細長い二等辺三角形は裏を見ると、底辺隅が製作者が自らの手を傷めない程度の面取りが施されている。江戸期の大円山兜鉢がこの部分を大きく丸く削るのは、実物がないまま口伝に頼ったからと想像する。

このＪＡＹＯ40は、県立中央博大多喜城分館の「特別展、甲冑とその時代」にその姿を公にした後、再び姿を消している。また前号に石原氏の製作した兜鉢の写真を載せたが、これはフルコピーではなくコンセプトレプリカと捉えてもらった方がよい。

最後にこのコードネームの由来について記す。昨年、今年、北海道の畜産農家を震撼させたヒグマはＯＳＯ18、これは関係ない。最初に俺を呼び、昭和初期、西日本生まれの持ち主が切ったタンカ、「綱取君、解るかね。これが吉野朝時代というものじゃよ！」実はこの最後の部分に他ならないのだ。

〈登場人物・敬称略〉
柴田和光　日本刀柴田社長
広井雄一　文化庁美術学芸課勤務（当時）
小澤正実　東京国立博物館甲冑補修室（同）
芳賀実成　西光寺住職、文化庁評議員（同）
笹間良彦　甲冑研究家（同）
鈴木裕介　（一社）日本甲冑武具研究保存会評議員
山田怜門　右に同
石原明浩　甲冑製作者



写真はイメージ。鎌倉末期～南北朝前期
（日本甲冑武具研究保存会提供）

## （一社）日本甲冑武具研究保存会よりお知らせ

【甲冑武具重要文化資料 第六輯】

日本甲冑武具研究保存会では昭和四十三年から甲冑武具審査を開催し、認定書を発行しております。現在でも関東圏を会場に全国を対象に年二回、五月もしくは六月、十月もしくは十一月に開催しており、四十点以上のご出品で出張審査もお受けしております。

また当会では審査にご出品いただいた品物のうち、最上級の「重要文化資料」に認定されたものの図版と説明を掲載した「甲冑武具重要文化資料」を発行しており、最新号の第六輯を十一月三十日に発売する予定です。今回発行する最新号より、作者銘や年紀等の拡大写真と名称等の英訳を掲載いたします。最新号六輯の定価は二万八千円（当会会員価格二万五千円）、予約注文は十月～十一月頃、受付を開始いたします。

バックナンバーの第一輯～第四輯も長い間品切れとなっておりましたが、二〇二〇年に再販を開始し、現在もバックナンバーについては随時注文をお受けしております。ご注文は当会事務局まで、電話・ＦＡＸもしくはメールでお問い合わせください。

【月例研究会ライブ配信開始】

日本甲冑武具研究保存会では八月・一月を除く各月に東京月例研究会を開催しております。毎月異なるテーマのもと、参加者に持ち寄っていただいたものを鑑賞する甲冑武具専門の研究会です。遠方の方、事情により動けない方でもご参加いただけるよう、今年九月より研究会の様子をZoom Meetingによるライブ配信を会員限定で開始いたします。各回について配信のご案内をさせていただきますため、詳しくは当会ウェブサイトをご覧ください。

月例研究会は当会の近畿支部・東海支部でも定期的に開催しております。ご興味のある方は、当会事務局までお問い合わせください。

〒162-0801 新宿区山吹町三五〇 鈴康ビル二〇一号 ☎〇三-六二六五-〇八五六
E-mail：office@japanese-armor.or.jp

重要文化資料の鉄黒漆塗十二間阿古陀形筋兜

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
㈱日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

大阪刀剣会
吉井唯夫
大阪市中央区日本橋二-七-一
TEL ○六-六六三一-二二一〇
FAX ○六-六六四四-五四六四

美術刀剣、小道具、武具類の売買、加工及び御相談承ります

刀剣・小道具・甲冑武具
目白 飯田高遠堂
代表取締役 飯田慶雄
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
http://www.iidakoendo.com

アオバ企画㈱
高橋一
〒130-0012
墨田区大平四-一九-二-一三〇八
TEL ○三-三六二二-二三三一
FAX ○三-三六二二-二二五一
メール aobakk@pj8.so-net.ne.jp

日本刀の 江州屋
名品・名刀を販売
店主 小暮昇一
〒529-1315
滋賀県愛知郡愛荘町沓掛80-1
TEL 0749-42-2736
携帯 090-3162-7641
http://www.goushuya-nihontou.com

# 「現代刀職展」表彰式が開催される

去る八月十日、公益財団法人日本美術刀剣保存協会（酒井忠久会長、以下「協会」）主催、二〇二三年度「現代刀職展」の表彰式が、第一ホテル両国において開催されました。

来賓として、逢沢一郎衆議院議員（「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」幹事長）、武藤容治衆議院議員（同連盟幹事）、山田宏参議院議員（同連盟事務局長）、三輪善英文化庁文化財第一課長、刀剣組合・深海信彦理事長が臨席され、協会名誉顧問・高村正彦元外務大臣も出席されました。

式典は午後一時半から始まり、初めに酒井協会会長から挨拶がありました。続いて来賓の逢沢議員・武藤議員・山田議員・三輪課長から祝辞が述べられました。

本年度の現代刀職展には、全部門合わせて一五九点の出品があり、そのうち作刀の部八名、研磨の部一一名、刀身彫の部一名、彫金の部四名、柄前の部二名、白銀の部一名の計二七名の方々が特賞の栄誉を得られました。

まずは作刀の部で高松宮記念賞を受賞された森國利文氏に、酒井会長から賞状と賞杯が授与されました。続いて各受賞者が次々と壇上に上がり、酒井会長より賞状と賞杯が授与されました。受賞者には副賞として、作刀の部は玉鋼、そのほかの部には賞金が贈られました。

また、研磨の部・是澤光昌氏が、本年度の現代刀職展で無鑑査選任基準を満たし無鑑査に認定されたということで、酒井会長より認定書の授与が行われました。

続いて、審査員から作刀の部と研磨の部について講評がありました。作刀の部は宮入法廣審査員より、玉鋼の普及で綺麗な地鉄が多いかと思いきや、それぞれ鉄を工夫しており驚かされたこと、一方、姿については重たく感じるものやズングリとしたもの、茎の仕事が雑に見えるものがあったこと、また直刃の作品が多かったものの、焼刃の中で最も難しいものであるから、古作を求めるのであれば先人の仕事をしっかり見てほしいことなどが指摘されました。また、焼き割れがあると授賞をワンランク落としている旨を説明されていました。

続いて研磨の部は、杉原宗都審査員から、地肌のこなしや拭い、刃取りが研究努力により向上していること、ヒケにも注意して研いでいるようで好ましいこと、特に特賞上位の作品は甲乙付け難く、非常に細かい点まで気を遣った研ぎであり、敬服したとの講評がありました。また、近年は照明が電球や蛍光灯からＬＥＤになり、光源の基準が難しく、研ぎの荒れも見えやすく研師には大変な時代になっており、光源を変えるなどして確認が必要な場合もあることや、鎬地も見所の一つであり出来上がりを想像して時代に合わせた磨きを考えてほしいことなどが指摘されました。

最後に、受賞者を代表して森國利文刀匠が答辞を述べられ、式は一時間半ほどで滞りなく終了しました。

現代刀職展各部門の技術は、いずれも刀剣文化を維持発展させていく上で欠かせないもので、さまざまな困難の中、毎年技術の向上に努められている職人の方々には頭が下がる思いです。（生野直輝）

「現代刀職展」表彰式で開会の挨拶をする酒井会長

## 展覧会に先立ち、鑑賞・技術交流会開かれる

東京・両国の刀剣博物館にて現代刀職展の受賞作を展示する「二〇二三年度現代刀職展―今に伝わるいにしえの技―」が八月十一日～十月十五日に開催されました。

作刀・研磨・刀身彫・彫金・白鞘・刀装・柄前・白銀と多岐にわたる刀職の優れた技量を一度に鑑賞できる貴重な機会となりました。

なお、同館では展示に先立ち、刀匠の技術向上を目的として、受賞作を手に取って鑑賞し、意見を交換し合うことができる技術交流会を長年にわたって開催しています。本年は感染症の流行も収まり久しぶりの開催でしたが、以前と変わらず、全国から集まった多くの刀匠たちが各人の出品作を熱心に鑑賞していました。

本年からは展覧会出品者のみを対象とした研究会となっており、こうした絶好の機会を生かすために、一人でも多くの刀匠の出品が可能となるよう、業界関係者、愛刀家の皆さまの支援を切に願うものです。（飯田慶雄）

刀匠たちの技術交流会

公益財団法人日本美術刀剣保存協会主催　◆2023年度現代刀職展　審査結果一覧　作刀の部

| 太刀・刀・脇指・薙刀・槍の部 | |
|---|---|
| 高松宮記念賞 | 森國　利文 |
| 薫山賞 | 小宮　治氣 |
| 寒山賞 | 安藤　祐介 |
| 公益財団法人<br>日本美術刀剣保存協会会長賞一席 | 北川　哲士 |
| 公益財団法人<br>日本美術刀剣保存協会会長賞二席 | 冨岡　慶一郎 |
| 優秀賞一席 | 月山　一郎 |
| 優秀賞二席 | 田中　論 |
| 優秀賞三席 | 清水　達吉 |
| 優秀賞四席 | 小宮　早陽光 |
| 優秀賞五席 | 木村　光宏 |
| 努力賞一席 | 早坂　政義 |
| 努力賞二席 | 吉田　政也 |
| 努力賞三席 | 加藤　政也 |
| 努力賞四席 | 小宮　安氣光 |
| 努力賞五席 | 羽岡　慎仁 |
| 入選一席 | 森　光秀 |
| 入選二席 | 湯川　夜叉　アレキサンデル |
| 短刀・剣の部 | |
| 薫山賞 | 髙橋　祐哉 |
| 寒山賞 | 木村　光宏 |
| 公益財団法人<br>日本美術刀剣保存協会会長賞 | 松川　隆 |
| 優秀賞 | 山下　浩郎 |
| 努力賞一席 | 渡辺　徹 |
| 努力賞二席 | 安藤　祐介 |
| 努力賞三席 | 山野　達人 |
| 努力賞四席 | 伊藤　重光 |
| 入選一席 | 森　光秀 |
| 入選二席 | 髙羽　弘宗 |
| 入選三席 | 小澤　茂範 |
| 入選四席 | 太田　周作 |

## ◆研磨・刀身彫・彫金・白鞘・刀装・柄前・白銀の部

| 研磨鎬造の部 | |
|---|---|
| 文部科学大臣賞 | 小川　和比古 |
| 木屋賞 | 横山　智庸 |
| 竹屋賞 | 松村　壮太郎 |
| 千葉賞 | 柏木　良 |
| 薫山賞 | 細村　正勝 |
| 寒山賞 | 多田　芳徳 |
| 公益財団法人<br>日本美術刀剣保存協会会長賞一席 | 玉置　城二 |
| 公益財団法人<br>日本美術刀剣保存協会会長賞二席 | 是澤　光昌 |
| 優秀賞一席 | 真津　仁彰 |
| 優秀賞二席 | 菊池　真修 |
| 優秀賞三席 | 井上　聡 |
| 優秀賞四席 | 諸富　剛 |
| 優秀賞五席 | 森井　鐵太郎 |
| 優秀賞六席 | 三浦　弘貴 |
| 努力賞一席 | 小宮　光敏 |
| 努力賞二席 | 神山　貴恵 |
| 努力賞三席 | 平井　隆守 |
| 努力賞四席 | 各務　弦太 |
| 努力賞五席 | 栗崎　佳子 |
| 努力賞六席 | 赤川　裕実 |
| 努力賞七席 | 大門　健士郎 |
| 努力賞八席 | 長岡　靖昌 |
| 入選一席 | 松尾　清健 |
| 入選二席 | 佐藤　秀明 |
| 入選三席 | 関山　和進 |
| 入選四席 | 阿部　義貞 |
| 入選五席 | 福森　克一郎 |
| 入選六席 | 水田　吉政 |
| 入選七席 | 柿沼　進一 |
| 入選八席 | 曽我　文麿 |
| 入選九席 | ヘンドリッキ・リンデラウフ |
| 入選十席 | 堀　壮一郎 |
| 入選（以下氏名五十音順） | 岩政　鋼輝 |
| 入選 | 枝松　孝治 |
| 入選 | 沖島　大喜 |
| 入選 | 上條　徹 |
| 入選 | 北脇　義晴 |
| 入選 | 倉田　竜太郎 |
| 入選 | 齋藤　秀夫 |
| 入選 | 櫻井　亮明 |
| 入選 | 櫻井　智彦 |
| 入選 | 新谷　信幸 |
| 入選 | 田中　賢治郎 |
| 入選 | 中北　孝文 |
| 入選 | ニコラス・ベンソン |
| 入選 | 船津　広大 |
| 入選 | 細越　敬喜 |
| 入選 | 柳田　道綱 |
| 入選 | 和田　祥一 |
| 研磨平造の部 | |
| 薫山賞 | 三浦　弘貴 |
| 寒山賞 | 玉置　城二 |
| 公益財団法人<br>日本美術刀剣保存協会会長賞 | 神山　貴恵 |
| 優秀賞一席 | 阿部　義貞 |
| 優秀賞二席 | 森井　鐵太郎 |
| 優秀賞三席 | 松尾　清健 |
| 優秀賞四席 | 大門　健士郎 |
| 優秀賞五席 | 横山　智庸 |
| 努力賞一席 | 秋田　勇喜 |
| 努力賞二席 | 國上　涼 |
| 努力賞三席 | 柏木　良 |
| 努力賞四席 | 平井　隆守 |
| 努力賞五席 | ヘンドリッキ・リンデラウフ |
| 努力賞六席 | 細村　正勝 |
| 入選一席 | 神　早紀 |
| 入選二席 | 安井　隆之 |
| 入選三席 | 曽我　文麿 |
| 入選四席 | 坂上　梓 |
| 入選五席 | 川田　神奈 |
| 入選六席 | 岩政　鋼輝 |
| 入選七席 | 中本　淳一 |
| 入選八席 | 新谷　信幸 |
| 刀身彫の部 | |
| 公益財団法人<br>日本美術刀剣保存協会会長賞 | 柏木　幸治 |
| 彫金の部 | |
| 薫山賞 | 柳川　清次 |
| 寒山賞 | 川島　義之 |
| 公益財団法人<br>日本美術刀剣保存協会会長賞一席 | 片山　恒 |
| 公益財団法人<br>日本美術刀剣保存協会会長賞二席 | 福與　裕毅 |
| 優秀賞 | 福山　葵 |
| 努力賞一席 | 松井　紀明 |
| 努力賞二席 | 辻本　啓 |
| 努力賞三席 | 武田　守夫 |

次ページに続く↖

令和5年10月15日発行　　刀　剣　界　　第67号

| | |
|---|---|
| 努力賞四席 | 三角　恭平 |
| 努力賞五席 | 石井　瑛湖 |
| 努力賞六席 | 阪井　淳 |
| 努力賞七席 | 桑野　冬照 |
| 入選一席 | 佐藤　周 |
| 入選二席 | 和田　恵子 |
| 入選三席 | 中村　晋也 |
| 入選四席 | 山口　正興 |
| 入選五席 | ブローデリック・ジェフ |
| 入選六席 | 髙橋　正樹 |
| 入選七席 | マヌエル・コデン |
| 入選八席 | 大川　千光 |
| 入選九席 | 佐々木　恒介 |
| 入選十席 | 伊集院　貴子 |
| 入選（以下氏名五十音順） | 太佐　誠治 |
| 入選 | 藤川　耕生 |
| 入選 | 古川　千智 |
| 白鞘の部 | |
| 優秀賞一席 | 永洞　修 |
| 優秀賞二席 | 河合　広明 |
| 優秀賞三席 | 森井　敦央 |
| 努力賞一席 | 橋本　幸律 |
| 努力賞二席 | 佐藤　ひなの |

| | |
|---|---|
| 努力賞三席 | 千葉　正義 |
| 入選一席 | 柿沼　進一 |
| 入選二席 | 千葉　俊和 |
| 入選三席 | 平山　直弥 |
| 入選四席 | 三倉　類太 |
| 入選五席 | 野田　芳孝 |
| 刀装の部 | |
| 優秀賞 | 松島　亨 |
| 努力賞一席 | 久保　謙太郎 |
| 努力賞二席 | 岸野　輝仁 |
| 努力賞三席 | 橋本　幸律 |
| 入選一席 | 平山　直弥 |
| 入選二席 | 伊藤　俊克 |
| 入選三席 | 佐久間　保男 |
| 入選四席 | 山田　真也 |
| 柄前の部 | |
| 公益財団法人<br>日本美術刀剣保存協会会長賞一席 | 橋本　幸律 |
| 公益財団法人<br>日本美術刀剣保存協会会長賞二席 | 久保　謙太郎 |
| 優秀賞 | 飯山　隆司 |
| 努力賞一席 | 伊藤　俊克 |
| 努力賞二席 | 松田　那由太 |

| | |
|---|---|
| 努力賞三席 | 矢倉　聡一 |
| 努力賞四席 | 山田　真也 |
| 努力賞五席 | 小出　匡毅 |
| 努力賞六席 | 大槻　良一 |
| 入選一席 | 大﨑　清弘 |
| 入選二席 | 中山　恒久 |
| 入選三席 | 小形　純子 |
| 入選四席 | 野田　芳孝 |
| 入選五席 | 奥野　重正 |
| 入選六席 | 山下　仁義 |
| 白銀の部 | |
| 公益財団法人<br>日本美術刀剣保存協会会長賞 | 三島　幹則 |
| 優秀賞 | 武田　典明 |
| 努力賞一席 | 前田　航汰 |
| 努力賞二席 | 佐藤　周 |
| 入選一席 | 上野　宏樹 |
| 入選二席 | 武藤　健 |
| 入選三席 | 柿沼　進一 |
| 入選四席 | 中村　晋也 |
| 入選五席 | 野田　芳孝 |

公益財団法人日本刀文化振興協会主催　**◆第13回 新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会　入賞・入選一覧**

| | 作刀 | 刀身彫刻 | 研磨 | 刀装具 | 白銀 | 白鞘 | 柄巻き | 鞘塗 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 文部科学大臣賞 | | | 阿部聡一郎 | | | | | |
| 経済産業大臣賞 | 河内　一平 | | | | | | | |
| 日本刀文化振興<br>協会会長賞 | 上山　陽三 | | 阿部聡一郎 | | 松本　豊 | | | |
| 特別賞 | 長野県知事賞<br>月山　一郎 | | 信濃毎日新聞社賞<br>森井鐵太郎 | | | 坂城町教育委員会教育長賞<br>古川　和幸 | | 坂城町長賞<br>小山　光秀 |
| 金賞第１席 | 宮入　陽 | | 関山　和進 | 川上　登 | | | 遠山　和康 | |
| 金賞第２席 | | 木下　宗憲 | 水田　吉政 | | 杉山　英明 | 田澤　敦嗣 | 井上　裕隆 | |
| 金賞第３席 | | | 藤川　二朗 | | | | | |
| 銀賞第１席 | 森　光秀 | | 三浦　弘貴 | ジェフ　ブローデリック | | | 黒田　勉 | |
| 銀賞第２席 | 新名　公明 | | 相良　雄一 | 恩田　秀人 | | | | |
| 銀賞第３席 | 松田　要 | | 倉島　一 | | | | | |
| 銅賞第１席 | 冨岡慶一郎 | | | アン　ウルフ | | | 平井　重治 | |
| 銅賞第２席 | 吉田　政也 | | | 阪井　淳政 | | | 貞　千春 | |
| 入選<br>（五十音順） | | | 赤坂　文隆 | 岩城　聡正 | 松川　泰典 | | | |
| | | | | 小谷　祐司 | | | | |

※文部科学大臣賞……作刀・刀身彫刻、研磨、刀装（外装）の３部門ごとに審査し、各部門の首席の中から最も優れた作品に対し授与

**◆第７回 特別公開部門**
**“Sword Oshigata Art” 部門　授賞一覧**

| | |
|---|---|
| 優秀賞第１席 | 長津　祐介 |
| 優秀賞第２席 | 三浦　弘貴 |
| 優秀賞第３席 | 澤田　康則 |
| 優秀賞第４席 | 下村　容子 |
| 佳作第１席 | 髙橋　稔直 |
| 佳作第２席 | 埴生　真央 |
| 佳作第３席 | 吉野　弘美 |
| 入選<br>（五十音順） | 舛田はるか |
| | 松岡　遼子 |

## 佐野美術館で「日本刀の匠たち」開催

第 13 回「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」は坂城町鉄の展示館において 5 月 27 日㈯～ 8 月 27 日㈰に開催されたが、後期展として佐野美術館に会場を移し、同館所蔵の名刀の特別展示を加え、「日本刀の匠たち」展が開催される。

**会期：**10 月 28 日㈯～ 12 月 17 日㈰
**佐野美術館：**
〒 411-0838 静岡県三島市中田町 1-43
☎ 055-975-7278
https://www.sanobi.or.jp/

## ご　挨　拶

公益財団法人日本刀文化振興協会　理事長　**大野 義光**

拝啓　時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は当協会の活動に対しご支援ご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

さて、この度、公益財団法人日本刀文化振興協会４代目の理事長に就任いたしました大野義光（本名吉川三男）でございます。天田昭次初代理事長に始まり、本阿彌光洲元理事長、吉原國家前理事長と、歴代の刀剣界の重鎮ともいえる方々の後を引き継ぐことの重さに身が引き締まる思いです。

特に、この度は大先輩でもあり、また吉原義人師と並び私にとっての師匠である吉原國家師の逝去を受けてのことでもあり、本当に逡巡いたしましたが、國家師の意思を未来に繋げる役割を担うべく、就任をお引き受けすることといたしました。

私が申し上げるまでもなく、國家師は若くして頭角を現し、今日隆盛をみる現代刀備前伝の先駆的存在といっても過言ではありません。旺盛な仕事量、作品の完成度の高さなど、一門のみならず多くの刀工の手本となっておりました。また、平成 18 年には全日本刀匠会会長として強いリーダーシップを発揮し、全日本刀匠会の独立を成し遂げました。

昨今の日本刀ブームが依然として冷めやまないことは大変喜ばしいことですが、単なるブームにとどまらない、正しい日本刀の姿を伝えるべく、皆様のご協力を頂きながら、さらに力を尽くすことをお伝えして就任のご挨拶といたします。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

敬具

## 受賞の言葉

**阿部 聡一郎**

本日は公益財団法人日本刀文化振興協会主催第 13 回「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」授賞式に皆様のご臨席を賜り、心より御礼申し上げます。また、コンクール開催にあたってご尽力いただいた皆様には、心より感謝申し上げます。

私のコンクールへの初出品は、2014 年第５回展で、会場が大倉集古館から坂城町鉄の展示館に移って初開催の年でした。

それ以来、今日までの９年間を振り返ってみますと、素晴らしい新作刀を数多く研磨させていただいたことで体力と根気が養われ、技術や感性も培われていったと感じております。新作刀のように下地から最後の仕上げまでの工程を完了する経験を継続的に積み重ねられたことは、自分にとって大きな財産となりました。また、素晴らしい諸先生方、先輩方との出会いやさまざまな教えを頂いたことで、刀職者として成長させていただいたと思っております。

この会場で思い出されるのは、第６回の展覧会の際に、父の師匠でもある今は亡き小野博柳先生から「仕事だけでなく、言動や立ち居振る舞いにも気をつけるようにしなさい」とのお言葉を頂いたことです。良い刀を研ぐためには、人として相応の品格を備えなさい、という教えだと思っております。素晴らしい刀と出会い、さらに良い仕事ができるように精進して参りたいと思います。

諸先生方、諸先輩方には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# 繁慶の六十余州鉄砲奉納は石見銀の安全輸送祈願でないか

伊藤　三平

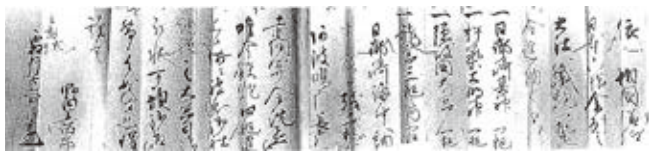
繁慶（鉄砲鍛冶銘：清堯）は鉄砲鍛冶でも名工であった。徳川家康が駿府に隠居する時、信頼している鉄砲鍛冶 胝（あかがり）惣八郎に同行を求めたが、老齢を理由に自身の代わりに推挙したのが清堯である。家康の形見分け記録である駿府御分物帳（すんぷおわけものちょう）に家康や家康子息用の清堯の鉄砲が現存している。そして、家康に命じられて諸国の一の宮に鉄砲を奉納したことも知られている。この奉納は大坂の陣の戦勝祈願とする説が有力だが、これは石見銀山からの産出銀の海路輸送に際しての安全祈願を託されたものではないかとの説を提示したい。

## 一．六十余州への鉄砲奉納の経緯

清堯の鉄砲奉納の経緯は日御碕（ひのみさき）神社に残されている「元和四年霜月二十六日の野田善四郎（清堯）書状」（図1）から知れる。

「相國（しょうこく）様の仰せによって日本六十余州の大社へ鉄砲一挺ずつ進納します。一、日御碕神社　一挺、一、竜宮　三挺之内一挺（竜宮分の一挺は）日御碕海中へ納め、残る二挺は阿波鳴門（なると）、長門赤間関（あかまのせき）に沈め置かします。唯今、鉄砲四挺を進上しますが、いずれも御社（日御碕神社）に納め、それぞれの宮へ御納め下さって、大宮司様から御取状を貰ってください。」（読み下しは「相國様と鉄砲の奉納」辻本直男著『大日光60』参考）

図1　清堯（繁慶）の日御碕神社への奉納文書



『日本刀の歴史と鑑賞』（小笠原信夫著）より

「六十余州の大社へ鉄砲一挺進納」とあるが、書状に記載以外では上野国貫前神社、摂津国住吉大社に現存しているが、他では発見されていない。なお文献上で三河国白鳥大明神への奉納が確認できる（表1参照）。

表1　清堯（繁慶）が奉納した鉄砲

| | 銘文 | | 製作年月日 | 所蔵 |
|---|---|---|---|---|
| 現存（注1） | 野田善清堯（花押） | 上野国　一宮大明神　奉納　日本六十余州 | 慶長16年8月吉日 | 貫前神社 |
| | 野田善清堯（花押） | 奉納　雲刕杵築御宝前　日本六十余刕大社寄進之内 | 慶長17年10月吉祥日 | 出雲大社 |
| | 野田善清堯（花押） | 奉納　出雲国日御碕霊神御宝前　日本六十余刕大社寄進之内 | 慶長17年10月吉祥日 | 日御碕神社 |
| | 野田善清堯（花押） | 奉納　摂津国住吉大明神　日本六十余刕大社寄進之内 | 慶長18年5月吉祥日 | 住吉大社 |
| 文献上 | 銘文 | | 製作年月日 | 出典 |
| | 野田善清（花押）※1 | 奉納　三河国白鳥大明神　日本六十余州御神殿 | 慶長17年8月吉日 | （注2） |
| | 野田善清堯（花押） | 奉納　隠岐国大権現　日本六十余刕大社寄進之内 | 慶長17年10月吉祥日※2 | （注3） |

（注1）『日本鉄砲の歴史と技術』（宇田川武久編）の「野田清堯の鉄炮銘からみた武家の序列」（安田修著）に所載の「現存する清堯銘の鉄炮一覧」表を元に、「清堯の鉄砲」（辻本直男著）「刀剣美術」1965.4から補足。
（注2）文献上の三河国の鉄砲は『神社を中心としたる寶飯郡史』から発見。
（注3）文献上の隠岐国の鉄砲は日御碕神社に残る清堯書状（「清堯の鉄砲」（辻本直男著）「刀剣美術」1965.4）より。
※1　野田善清は野田善清堯の間違いと考えられる。
※2　清堯書状には製作年月日は無く、「相國様と鉄砲の奉納」辻本直男著（『大日光　60』昭和63年2月）より引用

上野国貫前神社は徳川氏が先祖とする新田氏、三河国白鳥大明神は徳川氏発祥の地の一の宮である。なお『姓氏家系大辞典』第三巻（太田亮著）の「野田」氏の項に「三河の野田氏、寶飯郡白鳥大明神慶長十七年八月棟札に「野田善清」（野田善清堯の誤記か）を載せ、碧海郡櫻井村白山社神主に野田氏、社領五十石也などの記載がある。清堯は神官の一族出身であるために、徳川氏の祈願にも関与したのではと考えている。

なお、もう一挺現存する摂津国住吉大社は、古来から海上交通安全を祈願する神様であり、このことは二で詳述したい。

前記書状から辻本直男氏は「相國様と鉄砲の奉納」の論文で次のように論じて、これが通説になっている。

①奉納された鉄砲には慶長十六～十八年（一六一一～一三）の年紀があり、この時期の徳川家の願い事とは対大坂方との勝利以外には考えられない。

②上州貫前神社は、祭神が経津主（ふつぬし）神という武神であり、徳川家の祖先新田氏の生国であることから選ばれた。

③住吉大社は、大坂城の南方からの攻撃進路に沿っていること、戦場になる摂津国の一の宮としてこの地方の人々の篤い信仰があることから選んだ。

④出雲、隠岐の四社分は慶長十七年には完成していたが、大坂の陣が終わり、元和二年（一六一六）には家康公も逝去され、奉納のタイミングを失したが、元和四年に日御碕神社と連絡が取れ、奉納できた（文書の年号は家康死後であり、相国様については家康、秀忠の両説があるが、辻本氏は他の論文の中で家康と推定されている）。

⑤龍宮の三挺の内、二挺は瀬戸内海の出入り口を扼（やく）し、潮の流れの激しい阿波の鳴門と赤間関が選ばれた。日御碕の海は本州の最西端に当たり、日御碕神社の下の宮が日沈宮（ひしずみのみや）といわれるように夕陽は美しく、その彼方に竜宮を想定したためであろう。祖先の新田義貞が鎌倉攻めに際して稲村ヶ崎で黄金造りの太刀を沈めたことにあやかろうとしたのではないか。

⑥他の六十余州の大社には今のところ鉄砲も文書も見つかっていないが、とても全部には及ばなかったのではなかろうか。もちろん、他の神社にも奉納されたが、現存はしていないという可能性はある。

なお日御碕神社、住吉大社には刀鍛冶に転じて後の「小野繁慶」銘の奉納刀も現存している（奉納刀は高野山にもある）。

## 二．託された祈願とは石見銀の安全な海上輸送では？

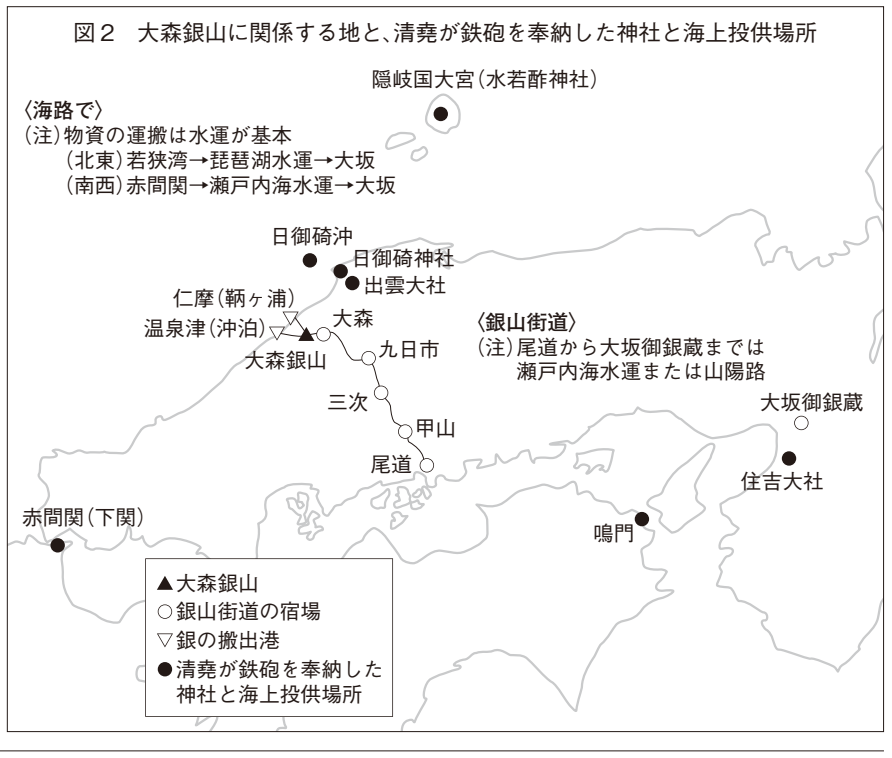
私は日御碕神社の奉納文書から、相国様から託されたのは「海上交通の安全」であり、それを日本海側の神様（海上交通安全にも御利益がある）と特に海上交通の要と考えた日御碕海中と、阿波鳴門、長門赤間関の海の神様に奉納したのではと考えている。

龍宮へ鉄砲を投げ入れて祈願するのは海神祭祀方法の一つの「海神投供（とうく）」に他ならない。そして海神への願いは「海上交通の安全祈願」「豊漁祈願」「漁労活動の安全祈願」等であり、阿波の鳴門、長門の赤間関という海の難所を考えると「海上交通の安全祈願」が妥当である。

では何故、日本海側の出雲で海上交通の安全祈願をしたのだろうか。これに関して、私は当地の近くから産出される石見（いわみ）銀山の銀を安全に運搬することの祈願ではないかと考えている。

関ヶ原の戦い後、家康は直ちに毛利家から石見銀山を取り上げ、大久保長安を銀山初代奉行とする。長安は測量技術を駆使して「横相（よこあい）」と呼ばれる坑道掘削技術を導入して幅広く銀鉱脈を掘り当て、水抜きも簡単にした。また山師安原伝兵衛を登用し、彼は釜屋間歩（まぶ）という坑道を発見し、慶長八年にここだけで三千六百貫（一三・五ﾄﾝ）の運上銀を産出したという。産出の全盛期は元和期（一六一五～二三）まで続く。

図2　大森銀山に関係する地と、清堯が鉄砲を奉納した神社と海上投供場所




産出された銀は鞆ヶ浦（とものうら）（仁摩（にま）町）や沖泊（おきとまり）（温泉津（ゆのつ）町）から積み出されていた。海上交通は危険が伴い、特に冬の日本海は季節風が強く航行に支障が多いため、大久保長安は中国山地を越え瀬戸内海へ至る陸路四日間の「銀山街道」（大森～三次～尾道）を整備し、尾道から大坂、伏見までは瀬戸内海の水運や山陽道で輸送するルートも設けている（図2参照）。

## 三．勘合貿易から南蛮貿易へ
### ―銀が輸出品の主役に

戦国時代末期になると明との勘合貿易に代わって南蛮貿易の時代となる。東洋に進出したポルトガル、スペインが、明の東南アジア諸国に対する海禁緩和（かいきんかんわ）を活用してマカオ、マニラに拠点を設け、明、東南アジア、日本を結んだ三角貿易を行ったのである。

明は一六世紀半ばから税制を一条鞭法（いちじょうべんぽう）（唐以来の米麦、生糸などの生産物の現物納と義務労役の二本立ての税制）に改めたので、銀の需要が高まる。この銀が日本の石見銀山から大量に輸出され、生糸や武器などが輸入されたのである。輸出品としての銀は、徳川幕府の朱印船貿易へ引き継がれている。当時のヨーロッパの地図には石見銀山（佐摩（さま）銀山、欧州ではSOMA）が明記され、一六世紀半ばから一七世紀前半には日本産の銀（大半が石見銀）は世界の産銀量の約三分の一を占めたと言われている。

## 四．繁慶（清堯）と銀山人脈の関係

繁慶と石見銀山人脈の関係にも触れておきたい。

①大久保長安は慶長十八年に死去し、生前の不正を糾弾されて一族は抹殺され、詳しい事績も不明になっているが、繁慶との接点は駿府で生じた可能性が高い。鉄砲には康継と同様に南蛮鉄の使用を明記した作品もある。長安は八王子に所領を与えられていたが、繁慶には一時期八王子にいて、二代将軍から年々炭千俵を賜っていたとの伝承がある。

②石見銀山の飛躍的な増産を成し遂げた安原伝兵衛知種（備中早島出身）は功によって備中守と因繁（いんげ）の諱（いみな）を賜ると伝わる。繁慶の「繁」と通字がある。清堯が繁慶に改銘した事情はわかっていないが、関連も考えられる。

③繁慶は鉄砲鍛冶時代は野田姓だが、晩年には「小野繁慶」と名乗っている。小野姓は日御碕神社の宮司の姓である。前述したように繁慶は神官に関係のある家の出身として、日御碕神社と何らかの関係を持って小野姓を名乗ったのではなかろうか。

繁慶には刀鍛冶に転じた理由、不明な師伝と特異な作風など、謎が多い。今回の考察が謎解明の一助になれば幸いである。

令和5年10月15日発行　　刀　剣　界　　第67号

## 法令講習会参加の記

去る五月十九日、中央区ブラッセリーで、築地署主催の講習会が開催された。コロナ禍の影響で久々の開催だったらしい。大きなホールにほぼいっぱいの人が参集した。築地署管轄の古物関係の人ってこんなにいたのかと驚いた。

まず、防犯責任者の挨拶。直近に発生して話題になった銀座の高級時計店の強盗の話から始まり、高級宝飾店への押し込み犯の話が出て、どなたも被害に遭う可能性はあると認識し、シミュレーションと対策は必須であるし、また実際に押し込みがあった場合、どうやって110番通報するか、など現実的な注意喚起がなされた。

古物営業法は、古物売買に関する許可と義務であり、法令をよく理解してもらうことが大事である。そしてもしもの場合、警察と古物商との連携で、犯人を捕まえられるよう、ご協力を仰ぎますと締めくくった。

その後、講習会が始まった。第一部と第二部の構成である。若い頭の良さそうなお姉さんがパワーポイントを使ってとてもわかりやすく説明してくれた。

第一部は、そもそも古物営業法はなぜ制定されたのか、それは犯罪の防止と回復のためである。買い取る場合、他人の免許証を使って取引する例があり、売りに来た人物が、本当に同一人物か、確認が必要であること。そして、買い取る場合、本人確認をどうするか、必要な書類を書いてもらうこと、手書きの場合もタッチペン記録の場合も、かならず面前にて書いてもらうこと、非対面取引の場合はどうするのか、個人情報の保護の観点から身分証明書のコピーや番号の書き写しはだめであると、繰り返し注意喚起されていたのが印象深い。

十分の休憩を挟んで第二部。古物営業所の移転などに伴う変更事項があった場合等について。とりわけ、疑問点はなかった。が、事前の届け出は三日前までという。三日前といいながら、三日間をあけた日、すなわち実際には四日前に変更届を出すことになるらしい。これは実に紛らわしいのではないか。粗忽な人（たとえば筆者のような）は締め切り後に届け出し、怒られてプチ切れて……ま、それはないとしても、間違える人は少なからずいるんじゃなかろうか。

早めに申請してほしいということなのかもしれないが、お役所的な、実生活にそぐわない決まりごとのように思えてしまった。

それから、代表者が変更されていてそのまま放置していると行政処分もありますから注意してください、という。該当する事項ではないが「行政処分かあ」と思っていたら、説明の女子はすかさず「処分を恐れてうやむやにしないで、正直に届け出て調べてくださいとおっしゃってくだされればよろしいかと。いきなり処分というのは現実にはありません」という。

あー、江戸時代、祖父が出羽大掾を受領して、子と孫が出羽大掾や出羽守を勝手に名乗っていても、申し出て手続きを踏めば、その受領の名乗りを認めますよ、などとあった江戸期の記録を思い出して、思わずニヤリ。現実的な注意喚起は流石だなあと。

そして、これらの申請や訂正に、押印は一切必要がないというのは、とても良いことだと思った。刀の所有者変更届出書をダウンロードしてみたら、㊞のマークがあるという例がいまだにあるし、東京都で登録業務に行って委任状を出したら、押印がないことを突如取り沙汰されるというのも、もはや時代錯誤であり、今後は改められていくだろうと思った。

講習修了後、一般社団法人東京古物商防犯連盟（東古連）の会長が登壇し挨拶した。世の中、いろんな団体があるものだと思った。会長は「HPがあります、ぜひQRコードを読み取ってください」としきりにおっしゃる。あんまり一生懸命なので、筆者もスマホを出して読み取ってみた。会長は馬場さん、副会長が二人、監事も二人、一人目は…「伊波賢一（東京美術刀剣商業協同組合専務理事）」。あー、伊波さんだ！東古連…俄然、親近感が湧いてきた。

最後に築地署の訓練風景を紹介する動画。暴漢を想定した激しくも実戦的な訓練。刃物、バールで襲ってくる凶暴な敵を、警棒や刺又を使って抑え込む。警官二対犯人一、警官三対犯人一など。命懸けだなあー、と感心してると「こんな風に日々訓練してまーす」というような体育会系のエンディング。笑うと一人一人はまるで少年少女のように愛らしい笑顔。

すべては防犯と円満な古物営業のため。暴漢が来た場合、パニックボタンの場所はどこか、いつ押すか。おかしな輩が売りにきて買ってみたら盗難品でしたという場合にどうするか。他人事ではない。

（小島つとむ）

銀座日本刀ミュージアム
泰文堂
〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-16
岩月ビル2階
㈱銀座泰文堂　代表 川島貴敏
TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367
http://www.taibundo.com

## 『刀剣美術』刀装具鑑賞も整理してみました

『刀剣美術』誌上の名刀鑑賞をPCで整理し、まとめた記事を本紙62号（令和四年一月発行）に掲載していただきました。すると、複数の剣友から貴重なご意見を頂くとともに、名刀鑑賞の裏ページにある刀装具鑑賞も整理してみては、と提案されました。

刀装具に関しては刀剣以上に浅学であり、時間を空費しておりましたが、先般、後藤通乗の三所入手を機に刀装具を整理しました。整理作業が一段落し、自身の勉強成果と『刀剣美術』再発見の感覚がありましたので、ここにご紹介したいと思います。

対象は手許にある三〇〇号（一九八二年一月）から七九一号二〇二二年十二月）までの四一年四九二回分です。

刀装具作品紹介は、名刀鑑賞と違って押形ではなく写真による作品紹介であり、作成者の個性は反映されないと思います。カラー写真は三五七号から始まり白黒と力ラーがしばらく混在し、四二〇号の安親鐔以降はカラーになっています。掲載品の半分以上は重要指定品で、国指定は一五点、特重指定は二六点ありました。

解説は当初無記名でしたが、三一五号の関戸健吾さん（延べ一〇回）から記名が始まり、小林暉昌さん二八九回、飯田俊久さん五四回、黒滝哲哉さん五二回、久保恭子さん四七回でした。

解説への私見ですが、各作品の基本条項に加え小林氏は意匠や故事、久保氏は関連研究や感動、飯田氏は流派や系統、黒滝氏は鉄への愛情が補足されています。

作品数では後藤一門が圧倒し、次いで夏雄三四点、昆寛二一点、宗珉一七点、信家一五点、安親、一乗、金家と続きます。

複数回掲載のお品もありますが、確定できないため補正していません。意匠では花鳥風月、故事、文字の順でしょうか。種別では鐔、小柄・笄、目貫、縁頭の順でした。

MS-EXCEL/WORDでは通常出てこない漢字も多く、見つからない漢字はヒラガナにしました。検索機能により作者、意匠、種別、指定、解説者の検索ができ、いろいろ重宝しております。

ご参考までに直近の四年分（二〇一九～二二年）を別掲します。個人の勉強目的で作成しており間違いや誤記はお見逃しください。

（刀剣愛好家・鈴木光寿）

### 「刀装具鑑賞」作品リスト

| 元号 | 西暦 | 刀美No. | 作者 | 意匠 | 種別 | | | | | | 補足、特記など | 指定 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 鐔 | 小柄笄 | 目貫 | 縁頭 | 揃い | その他 | | 国指定 | 特重 | 重要 | ほか |
| 令和1年 | 2019年 | 744 | 顕乗 | 猿猴捕月図三所 | | 2 | 1 | | | | 赤銅　金銀　満月弦月 | | | 1 | |
| | | 745 | 近則 | 烈公揮毫図大小 | 2 | | | | | | 那珂湊沙鉄 | | | 1 | |
| | | 746 | 光中 | 群蝶図大小 | 2 | | | | | | 赤銅　砂子象嵌　庄内 | | | 1 | |
| | | 747 | 金山 | 茶壷透 | 1 | | | | | | 鐵 | | | 1 | |
| | | 748 | 在哉 | 蝶図透 | 1 | | | | | | 素銅　庄内 | | | | |
| | | 749 | 尾張 | 宇津山透 | 1 | | | | | | 伊勢物語 | | | 1 | |
| | | 750 | 彦三 | 翁鑢小田原覆輪 | 1 | | | | | | 銅銀赤銅 | | | | |
| | | 751 | 東明 | 粟穂大小目貫 | | | 2 | | | | 金無垢 | | | 1 | |
| | | 752 | 如竹 | 龍図 | | | | 1 | | | 平象嵌　色がね | | | | |
| | | 753 | 伯應　一乗 | 亀鶴大小 | | | | 2 | | | 金砂子象嵌　一乗晩年 | | | 1 | |
| | | 754 | 永保 | 枝牡丹図三所 | | 2 | 1 | | | | 横谷派　有馬家藩工 | | | | |
| | | 755 | 政常 | 竹図 | | | | 1 | | | 鐵　金象嵌色絵 | | | | |
| 令和2年 | 2020年 | 756 | 祐乗 | 丸木橋 | | 2 | 1 | | 1 | | 尾張家名物　赤銅一色 | | | | |
| | | 757 | 光興 | 老子出関 | 1 | | | | | | 高彫据紋象嵌 | | | 1 | |
| | | 758 | 又七 | 蕨手に桜花透 | 1 | | | | | | 真円　彫込金象嵌 | | | 1 | |
| | | 759 | 東明 | 粟穂 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 鐵地　赤銅 | | | 1 | |
| | | 760 | 悦乗 | 鯱図三所 | | 2 | 1 | | 1 | | 加賀後藤　鯱鉾 | | | 1 | |
| | | 761 | 大森英秀 | 唐子遊戯 | 1 | | | 1 | | | 象嵌色絵 | | | 1 | |
| | | 762 | 勝珉 | 蟹図 | | | 1 | | | | 赤銅と金無垢 | | | 1 | |
| | | 763 | 祐乗 | 這龍 | | | 1 | | | | 赤銅一色 | | 1 | | |
| | | 764 | 義之 | 天真空…文字透 | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| | | 765 | 夏雄 | 四季花図大小 | 2 | | | | | | 赤銅魚子　金銀色絵 | | 1 | | |
| | | 766 | 長常 | 親子虎豹 | | | 1 | | | | 金一色 | | | | |
| | | 767 | 宗珉 | 福禄寿 | 1 | | | | | | 裏は立鶴　日置島津家 | | 1 | | |
| 令和3年 | 2021年 | 768 | 通壽 | 鬼鍾馗透 | 1 | | | | | | 水戸　四角 | | | 1 | |
| | | 769 | 埋忠明壽 | 柏樹文象嵌 | 1 | | | | | | 赤銅平象嵌 | | 1 | | |
| | | 770 | 信盧 | 能楽 | 1 | | 1 | 1 | 1 | | 色金　高彫 | | | 1 | |
| | | 771 | 古美濃 | 葡萄 | 1 | | | | | | 赤銅魚子　金銀色絵 | | | 1 | |
| | | 772 | 夏雄 | 浜千鳥 | | | | 1 | | | 赤銅　金小縁 | | | 1 | |
| | | 773 | 海野勝珉 | 寒山拾得 | 1 | | | | | | 朧銀石目地 | | 1 | | |
| | | 774 | − | | | | | | | | | | | | |
| | | 775 | 山吉兵 | 六方楕円雁金透 | 1 | | | | | | 黒水晶瑪瑙翡翠 | | | | |
| | | 776 | 昆寛 | 菊花透 | 1 | | | | | | 真鍮　裏銘 | | | 1 | |
| | | 777 | 栄壽 | 孔雀 | 1 | | | | | | 鋤出　金象嵌　風柳軒 | | | 1 | |
| | | 778 | 信家 | 車透 | 1 | | | | | | 放れ銘　井伊家旧蔵 | | | 1 | |
| | | 779 | 宗乗 | 三匹獅子 | | 1 | | | | | 下地は金と赤銅　光寿極め | | | 1 | |
| 令和4年 | 2022年 | 780 | 利壽 | 牡丹獅子 | | | | 1 | | | 金象嵌　毛彫　法眼 | | | 1 | |
| | | 781 | 清寿 | 追儺 | 1 | | | | | | 餓鬼厄除け | | | | |
| | | 782 | 羽黒 | 数珠透 | 1 | | | | | | 肉彫　地透 | | | 1 | |
| | | 783 | 夏雄 | 四君子 | | 1 | | | | | 四分一磨　表高彫裏毛彫平象嵌 | | | 1 | |
| | | 784 | 宗與 | 瑞雲に麒麟 | | 1 | | | | | 棒小柄に麒麟高彫 | | | 1 | |
| | | 785 | 宗乗 | 蜂 | | 1 | | | | | 赤銅　廉乗光侶極め | | | | |
| | | 786 | 盛国 | 富岳松原 | 1 | | | | | | 伊予正阿弥 | | | | |
| | | 787 | 乗真 | 飛天 | | | 1 | | | | 銀肌　金色絵象嵌 | | | | |
| | | 788 | 清次 | 柏樹 | 1 | | | | | | 明壽写し　柳川 | | | | 1 |
| | | 789 | 泰乗 | 鞍馬山 | | | 1 | | | | 赤銅魚子　高彫象嵌　後藤 | | | | |
| | | 790 | 三角 | 亀 | | | 1 | | | | 赤銅色絵 | | | | |
| | | 791 | 程乗 | 鮎漁小柄 | | 1 | | | | | 銀魚子地　鋤出高彫　光美極め | | | | |

イベント・リポート

古河歴史博物館「かえってきた堀川國廣」

## 古河藩主土井利位侯の注文打ちも圧巻

三月十八日から五月七日まで茨城県古河市中央町の古河歴史博物館において「かえってきた堀川國廣」と題し、刀工堀川國廣の名品二十五振を展示した企画展が催されました。

ここ古河歴史博物館では、古河藩の家老・長尾氏の祖先が、「山姥切國廣」を打たせた武将長尾顕長であったことに着目し、平成二十六年に企画展「堀川國廣とその一門」を開催しています。この展示会は近年の堀川國廣研究における集大成の要素を持つものであり、またその後の国廣ブームに大きなインパクトを与えました。

國廣展会場の瀬下昌彦さん

今回、二度目となる國廣展は、前回以来展示のなかった刀工堀川國廣の名品に、新たな作品も加え、ふたたび國廣の魅力を発信するものになります。

本展の開催に当たっては、当組合の理事を務められる瀬下明氏と、ご子息の昌彦氏の並々ならぬご尽力がありました。

瀬下さんはこれまでにも同館の刀剣企画展に多々参画しており、今回の展示でも企画や作品のセレクト、展示、図録の制作や広報活動のほか、元日本美術刀剣保存協会調査課長岩田隆氏の協力を引き出すなど、長い道のりを奔走されました。多くのご苦労があったことでしょう。頭が下がります。

私は四月十九日に、本展を取材し、またインタビューもしてきましたのでご報告します。

古河歴史博物館までは、東京から車で一時間ほどで到着しました。旧古河城出城跡に開館したもので、周辺の景観を生かし吉田桂二氏によって設計されたこの建物は、日本建築学会賞や公共建築賞を受賞しています。周辺には古河文学館などの文化香る施設も立ち並んでいます。

「開催初日には博物館の外まで入館者の行列ができ、整理券を発行したんですよ」。週末には、特に若い女性が押し寄せているとのこと。昌彦さんも嬉しそうです。

展示されていた刀は重要美術品をはじめ、そうそうたる名刀揃い。サプライズ展示として、展示の最後に古河藩主土井利位侯が固山宗次に打たせた大小の刀と、後藤一乗らの金工に仕立てさせた雪華文をあしらった大小の拵がありました。驚いたのは刀が実に美しく飾られていること。本当にお洒落だなと思いました。

照明もバッチリで、刃文も地鉄もきれいに見えました。これらの展示方法は一朝一夕でできるものではなく、瀬下さんの協力の下、刀剣の企画展を重ねる中で次第に改良されてきたものとのこと。見てきて本当に勉強になりました。

ミュージアムショップには、多種多様な刀剣グッズや、急きょ決まったという刀剣乱舞とのコラボグッズなど、面白いお土産がたくさんあり、最終的には完売したと聞き、これにも驚きました。

帰りには瀬下さんが、地元のおいしい鰻の蒲焼をご馳走してくれました。楽しくて非常に勉強になった一日でした。（生野　正）

新潟県立歴史博物館「上杉景勝　その生涯展」

## 姫鶴一文字が所縁の地で披露

新潟県立歴史博物館において七月十五日～八月二十七日、上杉景勝没後四〇〇年「上杉景勝　その生涯展」が開催されました。

上杉景勝は戦国時代末期に越後・佐渡の統一を成し遂げた武将です。弘治元年（一五五五）、越後上田庄（南魚沼市）を拠点に活動していた長尾政景と仙洞院の子として誕生し、後に上杉謙信の養子となります。謙信が没した後、同じく養子だった景虎との争いに勝利して後継の座に就き、さらに全国に名だたる大名へと成長していきます。秀吉の命により朝鮮出兵し功績を上げたことなどで、豊臣家の大老となり豊臣五大老と称されるまでなりますが、関ヶ原の合戦の結果として米沢へ移り、初代米沢藩主となりました。

今年は景勝の没後四〇〇年に当たり、あらためてその足跡を見直そうと、本展が企画されました。

展示は景勝の書状や上杉家伝来の鎧、景勝の側近であった直江兼続の直江状など上杉景勝ゆかりの所蔵品が数多く並び、刀剣は米沢市上杉博物館からお借りした重要文化財・姫鶴一文字が飾られました。姫鶴一文字は上杉家御手選三十五振の一振で、上秘蔵の二番目に挙げられている名刀です。

その刀を展示するのと、ライティングや刀の見え方を確認してほしいと、本展を担当される新潟県立歴史博物館の前嶋敏学芸員から依頼があり、お手伝いをさせていただきました。

姫鶴一文字は中心の先は切れていますが、生ぶの状態が残存しており、焼き出しが残っています。刃文は福岡一文字派が得意とした丁子刃を焼き、物打ちには島を焼いて変化に飛んでいます。映りも鮮明に現れ、とても健全でした。さすがに三十五腰の一振です。山鳥毛や高木長光の拵と同じように鐔のない上杉家独特の個性的な拵が添えられているのも特徴です。

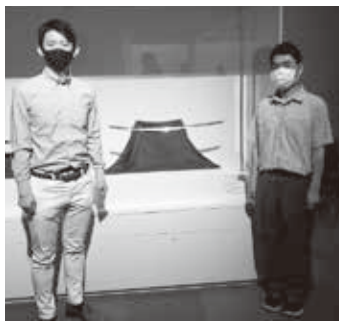
そのほか、上杉家伝来の三条吉家の太刀と古剣の展示を手伝わせていただきました。

ライティングや刀の見え方も確認し、姫鶴一文字の刃文や地鉄が存分に楽しめる状態でセッティングさせていただきました。

展示は前期、後期に分かれており、姫鶴一文字は前期のみの展示となっていました。

SNSなどでも姫鶴一文字が新潟に来ていることや、前期のみの展示だということがたくさん発信されており、姫鶴一文字を見るのを目的に新潟旅行に来ている人もいらっしゃいました。姫鶴一文字の人気の高さを感じました。

特別展は盛況のうちに閉幕し、たくさんの方にご来場いただけたと前嶋学芸員も喜んでいました。（土肥富康）


名刀を前に前嶋学芸員（右）と

## 恒例の刀職者実技研修会を開催

八月二十五～二十七日、長野県・坂城町鉄の展示館に隣接するコミュニティーホールにおいて「刀職者実技研修会」を開催しました。

本研修会は、（公財）日本刀文化振興協会が平成二十年に一般財団法人の認可を受けた直後より開催されました。公募展「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」は本年で十三回を数えましたが、それ以前から執り行われている当協会の主要事業の一つです。

プロの刀職者の育成を主目的として、本阿彌光洲、高山一之、小野博、吉原國家、宮島宏らの現代を代表する講師陣による熱のこもった研修が行われてきました。作刀・研磨・白鞘・拵・柄巻・白銀・彫金と多岐にわたり、しかも一堂に会する研修会として分野を超えた交流を持つことができるのも大きな特徴です。

その中から、現在では展覧会に出品し受賞を果たす方や、研修会において講師を務める方を輩出するなど、多くの成果があります。

受講者は職業として刀職技術の習得を考えている方、趣味として刀職技術を身に付けたい方、これから進路を決める一助として参加する方など参加の意図はさまざまで、今年は刀工を目指す高校三年生の参加もあり、人数的にも大盛況でした。

本研修会は会場となる「坂城町鉄の展示館」の入館者に公開をしていることで、多くの皆さまから「日本刀文化を身近に感じ、理解が深まった」とのお声を頂いています。

来年以降もより充実した研修会を企画する所存です。（公財）日本刀文化振興協会

研修会に参加した講師陣と研修生

## 「新作日本刀証明証」の発行について

公益財団法人日本刀文化振興協会（大野義光理事長）では、現在「新作日本刀証明証」を発行しております。

おかげさまで証明証発行の意義をご理解くださる方が増え、刀剣商の皆さまをはじめ、愛刀家、また作家ご自身より発行依頼が来るようになりました。

活躍中の有名作家の偽物が実際に出回っていることは残念な事実でありますが、現代刀作家作品の価値を貶めないため、また刀剣界の信用のためにも、新作日本刀証明証の役割は絶大です。また、この証明証には海外の刀剣ファンのためにも英語表記を加えております。今後、時が経てば経つほど、この証明証が現代刀の貴重な資料となることでしょう。

皆さまのご理解とご協力を得ながら、現代刀の愛好家にとって信頼性と価値のスタンダードとなるよう努めてまいります。今後も新作日本刀証明証を大いに活用していただきたいと思います。

ご不明な点は遠慮なく刀文協事務局までお問い合わせください。

（公財）日本刀文化振興協会
〒115-0044 東京都北区赤羽南二-四-七 鷹匠ハイツ三〇一号 ☎〇三-五二四九-四四四〇 E-mail：tbk@nbsk-jp.org

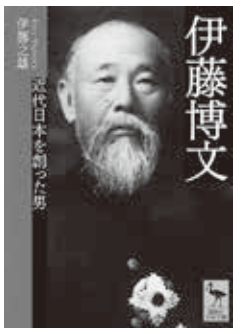
証明証サンプル

## ブック・レビュー　BOOK REVIEW

# 日本近代化の功労者の実像に迫る

## 『伊藤博文―近代日本を創った男』

伊藤之雄 著　定価二、一四五円　講談社学術文庫




中学生のころ、村田蔵六（大村益次郎）の生涯を描いたNHK大河ドラマ『花神』を熱心に見ていた。幕末維新期の、長州藩の人々を中心とした物語であった。長州藩といえば攘夷。下関を通過する欧米の船を攻撃し、その報復で、四か国連合艦隊により下関の砲台は壊滅。和平交渉で、高杉晋作（中村雅俊）は「そもそも日本国は」と切り出し、日本建国神話をとうとうと述べ始め、それを伊藤俊輔（博文。尾藤イサオ）が、覚えたての英語を駆使し、脂汗を流しながら懸命に通訳する。朴訥で、頼りない、しかし好人物の伊藤博文像だった。

伊藤博文は『春の波濤』にも登場した。マダム貞奴（松坂慶子）と川上音二郎（中村雅俊）の物語。伊丹十三さん演じる伊藤博文は、酸いも甘いも知り尽くした老獪な、そして女好きの大政治家。尾藤さんの演じた朴訥な青年の伊藤俊輔が、長じて伊丹さんの演じた老獪な伊藤博文になった、とはとても思えない。勿論、作者が異なれば人物像も異なるのは当然である。それにしても、ここまで違うんだなあ、と思った。

しかし、表題の本を読むと、伊藤の人物像に違いがあるのは、そう簡単な理由ではないらしい。

そもそも伊藤博文の本格的な伝記というものが存在しないという。それは伊藤博文が優秀で、活動が多岐に、長期にわたり、結果、遺された史料は膨大、そして、各論の研究も膨大となる。それゆえ、史料と研究を総括してまとめ上げることがきわめて困難なのである。

しかも、戦前と戦後で伊藤への評価は大きく変わった。伊藤を日本近代化の功労者としてとらえるか、帝国主義の悪役としてとらえるかで、その人物像は全く変わってしまうというのである。

伊藤之雄先生は、伊藤博文に関する膨大な一次史料と蓄積された研究に真っ向から取り組み、伊藤博文の人物像とその功罪を追求した、いわば伊藤博文研究の第一者である。この本は、伊藤の生まれ育ち、基本的な性質、下積み時代のこと、仕事の成功と失敗、苦悩、老いの問題、家族、井上馨や山県有朋との友情など、まさに伊藤博文に寄り添うようにして書かれた評伝で、伊藤博文のことがぎっしり詰まった一冊となっている。

筆者は、津田梅子が見た伊藤像の紹介に興味を惹かれた。津田塾大学創始者の津田梅子は、一時、伊藤家の家庭教師として住み込んでいたので、人間・伊藤博文を間近に見ており、伊藤の人間性や志向について談話を遺している。その談話の一つに、伊藤が、山積する日本政府の問題に、なぜあれほど精力的に取り組めたのかを解明するヒントになりそうな一節があった。

津田梅子の目に、伊藤はどのような人物として映ったのか。それは……ぜひ本書をお読みの上、ご自身で発見してください。

（小島つとむ）

■**伊藤之雄**（いとう・ゆきお）一九五二年、福井県生まれ。京都大学大学院文学研究科修了。博士（文学）。京都大学大学院法学研究科教授。『日本の歴史22政党政治と天皇』『元老西園寺公望―古希からの挑戦』『山県有朋―愚直な権力者の生涯』『明治天皇―むら雲を吹く秋風にはれそめて』『昭和天皇伝』（司馬遼太郎賞受賞）『原敬―外交と政治の理想』などの著作のほか、『原敬と政党政治の確立』（編著）がある。

## 極暑京都散策

本能寺表門付近

コロナも第五類に移行となったので、今年の夏休みは少しは遠出しようと、本能寺大寶殿宝物館で開催されている「日本刀の美」特別展に行く予定を立てました。

お盆休み中を見越して、八月十七日の東京発京都行きの新幹線を早々に予約していたのですが、台風の影響で新幹線は大混乱となり、予約の便はなんと運休となってしまいました。これは諦めるしかないのかと思っていたのですが、幸運にも後続の新幹線を取ることができ、三時間遅れで京都に入ることができました。

ホテルで小休憩後、何とか本日予定の本能寺宝物館に入館できました。メインは何と言っても特別重要刀剣指定の「古備前正恒」です。ご存じのように、正恒は友成と並ぶ古備前派の代表刀工で、優美な太刀姿が見事で、映りが立ち、鍛えの良さがうかがわれ、地刃の健全度も素晴らしい太刀でした。

そのほか、珍しい旧御物の「短刀則国」、初公開とされる「二字国俊」、刀装具、さらに本能寺の変で焼失した信長の愛刀「薬研藤四郎」と「実休光忠」の復元作などを拝観することができました。

また、文部科学省選定のドキュメンタリー映画「日本刀の美」の特別上映や日本刀鑑賞体験、研ぎ体験などイベントも盛り沢山に準備されているようでした。今回の展示は四期に分かれていて来春まで展示中とのことです。

拝観後、宝物館を出て本能寺参拝し、隣接する信長の墓所にも立ち寄りました。閉門時間ギリギリとなりましたが、何とか目的達成となりました。

翌日は粟田神社、鍛冶神社を訪れました。

粟田神社の二の鳥居を過ぎると階段が続き、登り切った所に粟田神社がありました。早速お参りをして、社務所で鍛冶神社の場所を尋ね、両社のお札を購入しました。どうやら、鍛冶神社を通り越してしまったようです。

粟田神社は古より東山道・東海道に面して建ち、この辺りは粟田口と呼ばれ京都と各地を結ぶ主要な出入り口でした。ここを最後に都を離れるという気持ちから、人々は旅の安全を祈り、また無事に都へ戻れたことを感謝して訪れ、いつしか旅の安全の神様として知られるようになりました。

この粟田神社の末社に鍛冶神社があります。粟田神社の二の鳥居を超えて駐車場がある側のこぢんまりと佇む神社でした。二本の石柱の間に注連縄を張った注連柱があり、徳川光圀と中国宋の欧陽脩が詠んだ刀に関する歌がそれぞれの石柱に刻まれていました。

山城刀工に所縁の鍛冶神社

また、社の左右には高さがまちまちの長方形の石柱が三本ずつ建てられていましたが、宗近や吉光の石碑であるのかはわかりませんでした。二〇一八年に改修されたそうで、製鉄・鍛冶の神様である「天目一箇神（あめのまひとつのかみ）」「三条小鍛冶宗近」「粟田口藤四郎吉光」が祀られているということです。山城国の刀鍛冶発祥の地とされる鍛冶神社は三条派・粟田口派の刀工を顕彰するために造られた神社だそうです。

当日、極暑の中、刀剣女子の姿も見られました。三条派や粟田口派の刀剣が扱えるよう祈念し、京都を離れ帰路に就きました。

（大平岳子）

## 「登録証問題」を考える 32

**事例46**

昭和二十六年千葉県登録、二尺五寸、文久年紀の勝村徳勝を取得したが、前所有者により登録証が白鞘にべったり糊付けされていた。接着剥がし液で登録証を慎重に剝がしたが、一部文字が読めなくなってしまい、棄損による登録証再発行のための千葉県現物確認審査を受けた。

現物確認が行われ、登録番号はそのままで登録証の再交付を受けたが、再発行登録証には、「昭和二十六年二月二十日交付」の記載がなくなり、「令和五年九月七日再発行」の日付記載のみであった。

その点を担当者に問いただすと、訂正再交付は現物と登録証の不一致を改めた場合にのみ、当初の公布年月日を記載するが、棄損や滅失の場合の（訂正ではない）再交付登録証には当初の公布年月日は記載しないとの由。

それが全国ルールとも言われたので、訂正再交付でも当初の公布年月日が記載されている例はあると、他県の訂正再交付登録証画像を複数送付して説明を求めた。すると、全国ルールは誤りであったこと、都道府県によりその記載方法が分かれていることが確認されたと、回答を受けた。

なぜ（訂正ではない）再交付登録証には当初の公布年月日が記載されないのかその理由は得られなかった。

昭和二十六年二月二十日の交付年月日は伝来をうかがわせる貴重な情報であり、また特別保存刀剣鑑定書発行日（平成十五年一月十六日）との整合性が問題になる。そのため、文化財管理の観点から千葉県における再交付登録証の登録証日付記載方法の改定を求めた。

現在、千葉県では改定について検討を行っているようである。全ての再交付登録証に当初の登録証交付日が記載される全国統一ルールを願ってやまない。

（登録証問題研究会）

NEWS & TOPICS

## 北野天満宮が刀剣乱舞とコラボ、「髭切」を特別公開

北野天満宮（京都市上京区）で十月二十八日から、日本の文化を発信するイベント「KYOTO NIPPON FESTIVAL 2023」が四年ぶりに開催され、重要文化財「太刀 鬼切丸」（髭切）の特別公開を記念して、人気ゲーム『刀剣乱舞』とのコラボも実施される。

全国の天満宮の総本社である北野天満宮を舞台に、日本の伝統文化とエンタメを融合させた同イベント。五回目となる今回は「刀剣、紅葉に染まる」をテーマに、日本刀を男性に擬人化した「刀剣男士」を集めて強化し、刀剣の魅力を伝えていく。

『平家物語』では、武将・源満仲が「髭切」と「太刀 薄緑」（膝丸）の二振を刀鍛冶に作らせたことから、ゲーム上では兄弟という設定になっている。同時期に大覚寺（京都市右京区）でも「膝丸」の特別展示が開催されるため、SNSでは「絶対、兄弟に会いに京都へ行く」と話題になっている。

また、軽装に身を包んだ刀剣男士の「髭切」と「膝丸」がデザインされた同イベントのキービジュアルも公開される。会期は、前期十月二十八日～十一月十日、後期十一月十一日～十二月三日。

令和5年10月15日発行　　刀　剣　界　　第67号

# 催事情報

## ■国立科学博物館

東京都台東区上野公園7-20　☎050-5541-8600（ハローダイヤル）
https://www.kahaku.go.jp/

### 特別展「和食～日本の自然、人々の知恵～」

「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されて10年。世界中でますます注目の高まる和食を、バラエティ豊かな標本や資料とともに、科学や歴史などの多角的な視点から紹介します。日本列島の自然が育んだ多様な食材や、人々の知恵や工夫が生み出した技術、歴史的変遷、そして未来まで、身近なようで意外と知らない和食の魅力に迫ります。
**会期**：10月28日㈯～2月25日㈰

## ■本能寺大賓殿宝物館

〒604-8091 京都市中京区寺町通御池下ル下本能寺前町522　☎075-231-5335
https://www.kyoto-honnouji.jp/info.html

### 日本刀の美 特別展

ドキュメンタリー映画「日本刀の美」にも登場する名作「古備前正恒」をはじめ、旧御物「短刀則国」や初公開「二字国俊」など、秘蔵の刀剣や刀装具を第一期「鉄の軌跡」に引き続き、次の三期に分けて順次公開する。
**第二期**：「研ぎの世界」9月2日㈯～11月12日㈰
**第三期**：「伝統をつなぐ人々」11月14日㈫～1月21日㈰
**第四期**：「日本刀の美」1月23日㈫～4月11日㈭

## ■備前長船刀剣博物館

〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船966　☎0869-66-7767
https://www.city.setouchi.lg.jp/site/token/

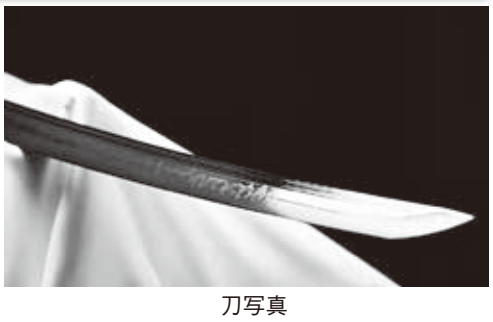
### 秋季特別展「赤羽刀とたどる戦後の刀剣史」

太平洋戦争で敗戦国となった日本では、GHQの指令の下、全国各地で武装解除を目的に刀剣類が接収されました。これを接収刀剣と呼びます。この展示では、接収刀剣のうち一部がどのような努力で現在まで残されることになったのか、その歴史をたどるとともに、現在の登録審査制度につながる経緯を紹介します。
**後期展**：10月14日㈯～11月19日㈰

## ■橿原神宮宝物館

〒634-8550 奈良県橿原市久米町934　☎0744-22-3271
https://kashiharajingu.or.jp/

### 特別展「橿原神宮の奉納刀」


刀写真

橿原神宮宝物館では令和５年正月より特別展「橿原神宮の奉納刀」を開催し、奉納された数々の刀剣の中から中世～幕末・近代に至るさまざまな時代の刀剣を関連史料とともに展示し、歴史的な出来事との関係について解説しました。第２回目となる今回の展示は、前期・後期の２部構成とし、前期展では前回展に出品しなかった刀剣を中心に展観し、後期展では前回の展示品も含めた多くの奉納刀を一堂に集めて展観します。橿原神宮所蔵のさまざまな刀剣をご覧いただく初めての機会ですので、ぜひお楽しみください。
**前期**：11月3日㈮･祝～12月24日㈰
**後期**：1月1日㈪･祝～5月12日㈰

## ■刀剣博物館

〒130-0015 東京都墨田区横網1-12-9　☎03-6284-1000
https://www.touken.or.jp/museum/

### 日本刀の装い―豊かなる刀装・刀装具と名刀展

当協会は創立75周年を迎えました。それを記念して「日本刀の装い―豊かなる刀装･刀装具と名刀展」を開催します。
刀剣類には、その目的に応じてさまざまな外装が作成されました。実用性を追求した剛健なもの、装飾に重きを置いた繊細にして華麗なものなど、多くの作品が現代に伝えられています。本展では、各時代の刀剣を彩った多様な刀装･刀装具類と、それらを製作する工程や道具類についても紹介します。また、刀剣類は当館の所蔵品・寄託品の国指定文化財を中心に名品を展示します。
**会期**：10月28日㈯～12月24日㈰

会場によって休館日が異なります。事前に確認の上、お出かけください。
現下の状況で入場制限や、観覧するには予約を必要とする場合もありますので、それぞれのホームページをご覧ください。

## ■福岡市博物館

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-1-1　☎092-845-5011
https://museum.city.fukuoka.jp/

### 特別展「黒田長政没後400年 黒田侯爵家の名品 知られざる黒田家『家』の近代史」

本来の黒田家のコレクションは現在福岡市が所蔵するものだけでなく、より多数の古美術品を含むものでした。これらは江戸時代に収集されたものを基本として、明治時代から昭和時代戦後に至る間に新たに「家宝」として整理され、一部は売却・譲渡されました。
本展は初代藩主黒田長政の没後400周年を記念して、明治時代から昭和時代戦後における黒田家のコレクションのうち、「家宝」とされた貴重な資料を集めたものです。現在のコレクションを形作った、近代黒田侯爵家の「家宝」のあり方を、国宝・重要文化財を含む約140点の資料から紹介します。
**会期**：9月15日㈮～11月5日㈰

## ■致道博物館

〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18　☎0235-22-1199
https://www.chido.jp/

### 日本刀物語～変遷と魅力～

日本が世界に誇る鉄（はがね）の美。日本刀は、古来より武具として、祭具として、贈答品として、そして美術品として、日本の歴史とともにありました。何度も鉄を折り返して鍛錬し、反りがあり美しく強い日本刀が生まれたのは平安時代後期のことです。以来、幾人もの刀匠たちが、自らの技を磨き、何世代にもわたって技を継承し、新たな技に挑戦し続けました。
本展では、出土した古代の直刀から「古刀」「新刀」「新々刀」まで、時代ごとに変化する特色、そして大和・山城・相州・備前・美濃の「五箇伝」など、地域ごとに異なる魅力を紹介します。併せて「天下三作」を称された正宗・吉光・義弘、「幕末三作」の水心子正秀・大慶直胤・源正行（清麿）の刀剣も出品します。
**会期**：9月21日㈭～11月5日㈰

## ■鹿児島県立歴史・美術センター黎明館

〒892-0853 鹿児島市城山町7-2　☎099-222-5100
https://www.pref.kagoshima.jp/reimeikan/

### 開館40周年記念企画特別展「南北朝の動乱と南九州の武士たち」

鎌倉時代のモンゴル襲来という国難から、幕府滅亡とその後の南北朝の動乱へと、中世は次々と争乱が勃発する激動の時代でした。本展覧会では、これらの相次ぐ争乱に直面した南九州の武士たちが、生き残りを賭けて戦い抜く姿を、現代に遺された貴重な古文書を手がかりに、関連する考古資料や絵画資料等を交えて紹介します。
**会期**：9月29日㈮～11月5日㈰

## ■日本橋高島屋S･C　本館6階美術画廊

〒103-8265 東京都中央区日本橋2-4-1　☎03-3211-4111
https://www.takashimaya.co.jp/nihombashi/

### 喜寿記念 刀匠月山貞利展「百錬精鐵」

喜寿を迎え、精力的に作刀に臨む月山貞利刀匠。平成５年から10回目となる同地開催個展で、伝統の「綾杉肌」や刀身彫刻など渾身の作品を発表する。嫡子貞伸の作品も同時に展示される。
**会期**：10月25日㈬～30日㈪

## ■刀剣ワールド桑名・多度

〒511-0122 三重県桑名市多度町古野2692
ホテル多度温泉レジデンス新館3階ローズウッド

### 明治・大正・昭和時代の刀剣

「刀 銘 帝室技芸員月山貞一謹作（花押）明治三十九年春以備前福岡一文字傳」や「脇差 銘 帝室技芸員宮本包則九十才作 大正八年二月十日」など、明治・大正・昭和時代に作刀された刀剣を展示。さまざまな現代刀工による作品をお楽しみください。
**会期**：9月1日㈮～12月31日㈰

## ■刀剣ワールド名古屋・丸の内

〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内2-1-33
東建本社丸の内ビル1階

### 特別展「鎌倉刀～いにしえの刀をもとめて」

日本刀の黄金期と呼ばれる鎌倉時代。作刀の技術が進歩し、各地に名工が活躍しました。特別展「鎌倉刀～いにしえの刀をもとめて」では、刀剣ワールド所蔵の古き良き鎌倉刀をゆっくりとご鑑賞いただけます。
**会期**：8月1日㈫～11月30日㈭

印刷／株式会社キタジマ